

---

# エルトリッセルを保持する者

レイアン

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

エルトリックセルを保持する者

### 【Zコード】

N4086BA

### 【作者名】

レイアン

### 【あらすじ】

この国の経済は崩壊した。

この国の領域は侵略された。

この国の民は絶望した。

だが、一人の少年、倉雨正嗣は違っていた。彼は心に決めていた。こんな間違った世界を変えてみせると。

そんな少年の前に一人の少女が現れる。

エルトリックセルを保持する者。それは、彼女の呼ばれ名だった。

世界の鍵を保持する者。世界を変えることが出来る者。そんな彼女

に出会つた。

これは、世界を変えたいと願つ少年と世界を変えることが出来る少女が出会つて生み出す物語。

## 間違つた国

鳴り響く銃声。そして、空氣をも揺るがし、轟音を巻き起こす爆発。そのたびに聞こえる悲鳴。もう、それは聞きなれたものだつた。なぜ、こんなことになつてしまつたのだろう。

事の始まりは、この国の経済が崩壊したことだつたはず。それによつて、この国は、支援なしには生きていけないほどにまで落ちて行つた。

だが、他国は救いの手を差し伸べるのではなく、自國の欲望のために、こぞつて侵略するよになつた。便宜上の理由としては、自分の国と統合して、安定した経済にするといつものだが、実際のところは、資源や土地と言つた財産を奪い取ろうとどの国も必死だつたが故だらう。

そして、そのために侵略してきた国同士が適當な理由をつけて、争つ。それを被害として、受けているのが俺たち、国民だつた。この国の子供や大人にはもう、選択権がないし、この状況を打破できるような力はない。無論、この状況を打破しようと立ち上がつた人々は山ほどいた。それはもう、数えきれないほどに。

だが、現実は甘くはない。立ち上がつた人々は、片つ端から排除されていった。そう、それは軍隊が自分たちの力を誇張しようとしたものだ。

この国の人々は、そのあまりの力の大きさにあきらめてしまった。そして、道端で撃たれた大人たちは、「やつと、終わる。この苦しみから解放される。」そう言って、嬉しそうに死んでいく。

だが、そんな社会間違つていると俺は思う。いや、だれしもが思つてゐる。にもかかわらず、だれも行動できない。いや、行動しようとしないが正しいか。

それが無駄なことだとわかつてしまつてゐるから。

「すまないな、由利」

悲しそうに空を見上げて、さらわれた妹の姿を思い浮かべながら、告げる。俺は、これから、世界を変える。そう胸に誓つて、走り出す。他国の兵から奪つた銃を構えて。

その目に映るのは、爆発により、コンクリートが崩れ落ち、鉄筋がむき出しどなりへし折れたビル。そして、今もなお、燃えている木製の家。

道に無残にも散らばっているガラス片やコンクリート片。

そして、視界は良好とは言えなかつた。耐えぬ争いによつて舞い上がつた砂埃があたりを包み込む、そんな状況だつたのだから。

だから、だろうか。走つていると、急に何かにぶつかった。いくら、視界が良好ではないとはい、気を付けてはいた。本来ならぶつかりえないようなほどには。

だが、現に何かにぶつかつている。それも、人に。俺はすぐに、構えた銃をそれに突きつける。だが、その正体不明の人は手を上にあげることもなく、ただ立ち尽くしていた。

その姿に疑いを覚えた俺は、顔をあげて、姿を確認した。そこにいたのは、他国の兵でも、すべてをあきらめた大人でもなく、予想だにもしなかつた少女であつた。

年は見た感じでは、十五歳から十八歳くらいで、俺と大体同じ。艶やかな銀のストレートの長髪は、太陽の光を受けて、清流のようにはきらめいている。そして、彼を見つめる蒼の瞳は、もう何年も見ていらない海を想起させるような美しさを持つていた。

こんな戦場には不釣り合いで、そう、言うならば、どこかの城でお姫様としていたほうが説得力のある姿であつた。

「全てを変えようとは思わないか」

最初に聞いてからすぐには何を言つてはいるのか理解が出来なかつた。明らかに、銃を突きつけられて始めて言つた言葉とは明らかに違つたために、とまどつたのだ。

そして、普通、赤の他人がそんなことを言つてはいたとしても、聞きはしないだろうし、信じられなかつただろう。

だが、俺が彼女の瞳を見据えたときに見えた強い決意の意志は、ゆるぎなものであった。

それゆえに、俺はそれを信じることにした。考えるのが短すぎるといわれれば、そうかもしない。

しかし、それは、俺の理想で、そのために戦っているといえるもので。そう、彼女は俺と同じ心意気なのだろうから、問題はなかつたのだ。

「ああ、俺はこんな世界を変えたい」

「ふふつ。いい答えだ。だが、君はそれを実行するには、まだ、力不足だ。一緒に、行こう」

そう言って、彼女は俺に向かって、手を差し出す。その手は、何にもけがされていない美しい白い手。それでも、その手のどこから、なぜだか力強さを感じられた。

そんな手を俺は迷わず掴んだ。すると、目の前の少女は頭から徐々に白く光り輝いていく。その輝きは周囲をも飲み込み、ここが戦場であるということを忘れさせるほどまで、煌めいていく。

その輝きは、ついには差し伸べた手まで至り、俺の手も当然かのごとく、輝かせていく。だが、それに恐怖を感じることはなかつた。なぜなら、その光は、すべてを包んでくれそうなほど大きく、優しくて。それに見とれてしまつていたのだから。

光が俺の体をすべて飲み込んだと自覚した直後、俺は先ほどとは全く違う空間にいた。そこは、先ほどの光と同じように、自然と心を落ち着かせてくれる、そんな場所だった。

## 間違つた国（後書き）

どうもレイアンと申します。

エルトリッセルを保持する者、いかがだつたでしょうか？

感想とか、ございましたら、よろしくお願ひします。

残酷な世界です。廃れた国があらば、それを乗っ取らんとせん。  
言つなれば、弱肉強食の世界。

そんな世界で主人公は生きています。自分の国が侵略されていて、  
みんながあきらめている、そんな状況を覆そと。  
そんな主人公をこれからも見守ってくれればなあと思います。

これからも、このエルトリッセルを保持する者よろしくお願ひします。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4086ba/>

---

エルトリッセルを保持する者

2012年1月10日20時54分発行